



岩手が生んだ二人目の総理大臣

齋藤 實

岩手県から今まで四人の総理大臣が誕生している。一人目は原敬、

二人目が、表題の齋藤實である。原敬に比べると齋藤の名はあまり知られていないが、いつでもいたわりの心を持ってねばり強く勉強や仕事をする人でした。一九三二年（昭和七年）に総理大臣になった齋藤實は国の政治の責任者として、広い心で、日本のことや世界のことも深く考えながら立派な仕事をした人である。

齋藤實は一八五八年（安政五年）水沢区吉小路で生まれた。小さい頃の名前は、富五郎と呼ばれた。お父さんが寺子屋の先生をしていたので、お父さんに習って十歳の頃には難しい漢文の本を読みこなしている。そして、水沢城主がつくった学校「立生館」に通って勉強している。「立生館」には水沢の三秀才とされる後藤新平や山崎為徳らも一緒に学んでいる。

一八六九年（明治二年）富五郎は、胆沢県庁ができると給仕（用務員の仕事）として採用される。一月五十銭の月給だが十三歳の子

どもでも新政府官員（国の役人）の一員であった。一八七一年（明治四年）宮城県の県北も含め、新に水沢県庁として生まれ変わった。富五郎は、新しい県庁に残ろうと思えば残れたのだが、上司に才能と人柄のよさをみこまれ、東京に出て勉強することを熱心に進められ一八七二年（明治五年）三月東京に行く。

そして、翌年には国費で勉強できる海軍兵学校（後の兵学校）に入學する。ここは、日本の将来の海軍の中心になる人を育てる学校であり、そのためにはイギリス流の新しい教育が必要ということ、三十四人ものイギリス人教師をよんで、イギリスの原書を教科書にした英語による授業が行われた。富五郎は寝食を忘れて英語を勉強し、一八七九年（明治十二年）に海軍兵学校を卒業する。

それから五年、齋藤は多くの軍艦に乗っての仕事が続いたが、一八八四年（明治十七年）四月からアメリカに四年間留学することになった。その間、ヨーロッパ視察団一行に同行し、通訳、案内も務め、ドイツ、フランス、オーストリア・イタリア等を半年間にわたって見て回り軍事の状況や国の様子そして文化などを学んでいる。また、フランスでは原敬と出会っている。他国の地でありながら

祖国日本の運命について話し合っているが、これらのことも貴重な体験として、将来、政治家として大きく成長する基になる。後齋藤

は、その後、三十六歳で少佐に、四十歳で大佐、四十一歳で次官になる。そして、日露戦争後の一九〇六年（明治三十九年）には海軍大臣となり、さらに一九一九年（大正八年）には朝鮮総督になる。

（当時朝鮮は日本の支配を受けていた。）朝鮮に着いて早々に、テロに会ったが、武力で住民をおさえこむのではなく、学問や法律によって差別をなくし、人々の生活が安定するようにいろいろと仕組みを変えて取り組んだ。その結果、朝鮮の人々に親しまれ、朝鮮の親父と言われた。過去の誰よりも優れた総督として十年間の長きにわたって在任する。

斎藤は、犬養毅総理大臣が暗殺された後、一九三二年（昭和七年）第三十代総理大臣に選ばれる。二百五十万人もの失業者、食糧不足、農業不振、陸軍との対立、政治家等の暗殺続き等々不安定な当時の日本を改めてよくしようと、斎藤は嘘や偽りのない気持ちで政治に力を入れる。少しずつ経済がよくなっていったことが、当時の新聞などからも分かる。しかし、斎藤は軍人ながら「軍事費縮小」「中国侵略反対」の考えを強く述べたため、反対の考えを持つ人たちに良く思われていなかった。

そして、一九三六年（昭和十一年）二月二十六日、朝五時、自宅で陸軍青年将校が撃った銃弾をあびて即死する。七十八歳であった。

これが日本の歴史において名高き「二・二六事件」である。

ところで、斎藤は生前、書を求められると、時間の許す限り書いてあげ、雅号（書に使用する名）を皋水としていた。皋は沢の意味だから沢水。逆にして水沢の實としている。それほど水沢を愛した人である。朝鮮総督になる前、旧留家の子どもをあずかり、海軍大臣をやめた後は北海道十勝の開拓地の払い下げを受け、ともに農業の仕事をする準備をしていた。また、他人に渡った生誕地を買い戻して家と書庫を建てた。旧宅の建物は、その後間もなく旧水沢市に寄付され、市は旧宅の隣に「皋水図書館」を建てた。

現在はこの家は斎藤實記念館となり県内外からたくさんの方が見学に訪れ、奥州市が生んだ偉大な三十代内閣総理大臣の功績を学んでいる。



ありし日の斎藤實
（東京町田市、千葉雲洞画伯筆）

*齋藤 實についてもっと詳しく勉強したい人は、水沢区にある齋藤實英記念館や旧宅・書庫「こうすいとしよかん 阜水図書館」(水沢区吉小路)を訪ねてみてください。

*参考文献

『齋藤實追想録』

齋藤實銅像復元記念出版

『岩手の先人一〇〇人』

岩手日報社

『岩手の先人 第四集』

日本教育会岩手支部

『齋藤實記念館のあゆみ創立十周年記念』

齋藤實記念館

『小学校社会科副読本「私たちの奥州市」』

奥州市教育委員会

『奥州おもしろ学—ジュニア・テキスト—』

特定非営利活動法人奥州おもしろ学



齋藤實記念館全景